

# 第1部 支えて 支えられて 私たちのちから

## 1 当事者活動の報告

司会 いわて脳外傷友の会イーハト-ウ顧問 菊地 賢次 氏  
(財団法人いわてリハビリテーションセンター事務局長)

### 音楽活動



コロポックル道南支部

デュオ「りぼん」  
ナミ(奥井直美)さん  
タッカ(高島啓之)さん

お二人の音楽活動は、「り・ぼ～ん」再び生まれ変わるとの命名の如く、やさしい温かな奥井さんの詩と、高島さんの作曲という協働作業から生まれた沢山の作品となって、多くの人々に生きる喜び生命の尊さを伝えています。

(奨励賞受賞の感想)

函館市を中心にライブ活動を通じて高次脳機能障害の普及啓発にも取り組んでいますが、その活動が北海道に広がり、そして、このように全国に広がりを見せていることで願いがかなったかなと思います。(高島さん)

(主な演奏活動の場所)

色々な所で活動していますが、喫茶店であったり、作業所と交流などを行うこともあります。

その他には、函館市内の何かのイベントのときの余興の場面とか、とにかく、函館では月1回、演奏が出来る形が来ています。(奥井さん)

(「ポケットの中の虹」の演奏)

二人の出会いの曲「ポケットの中の虹」を皆さん、聴いてください。

ポケットの中は いつも 虹のかけらを  
つめこんでいた  
誰にも分からない 宝もので いっぱい  
心配だから いつも 手をつないでいたんだ  
何の当てものなく ただ 明日ばかりを  
信じていた  
二人で 寄り添うことで  
すべてのものを 見ようとしていた  
見える気がした

二人で 寄り添うことで  
すべてのものを 見ようとしていた  
見える気がした

## 文化芸術

豊橋市 笑い太鼓  
星川真広さん



重い障害を負ったにも関わらず、受障以前からの夢であった美術、絵を描くことをあきらめず挑戦を続けられました。

このたび栄えある「等迦展」では入選し「奨励賞」を獲得されました。

遊び心たっぷりの「美しき日々」の如く楽しい作品です。

今日はありがとうございます。僕は25歳のときに交通事故を起こし、脳の障害と右半身と左目失明と重度の障害を負うことになりました。今から13年前のことです。

学生の頃の夢は美術関係の仕事がしたいと思っておりました。絵はもう書けないとあきらめていました。10年前に母から「右手がだめなら左手で書けばよいじゃないか」と言われて、少しずつ書き始め、教室にも通いだしました。

ふれる線が素晴らしいと言ってもらい、うれしくなり今日まで続けることができました。

今回賞をもらってとてもうれしいです。これからも続けていきたいと思っています。



星川真広さんの作品「美しき日々A」

## スポーツ

北京パラリンピックメダリスト

NPO法人脳外傷友の会・ナナ  
石井雅史さん



平成 20 年 9 月に中国北京市で開催されたパラリンピックにおいて、自転車の男子 1000 ㉿タイムトライアル(脳性まひ)に出場した石井雅史選手は、日本選手の金メダル第 1 号となりました。

また、個人追い抜きでは銀メダル、団体競技で銅メダルの合わせて 3 個のメダルという快挙を成し遂げました。

高次脳機能障害を負ってもスポーツへの意欲を失わず、厳しいトレーニングに励み、挑戦し続けた姿は多くの人々に感動と勇気を与えました。

(ゴールドメダリストまでの道のり)

事故後、ドクターストップで競輪の判定員に「もうだめだ」と言われ正式に引退しましたが、数ヶ月間、なにもする気が起きませんでした。その後、お世話になった競輪選手会役員から「障害者選手会という協会があるけど」と言われ、アテネの前年の 2003 年に合宿を見学に行ったのが始まりです。

その頃は乗るのがやっとで、競技レベルには到底達しなくて・・・その時に目にした“障害者の方々がアテネに出てメダルをとるんだ”というその意欲に向かっての姿を見て、“私もその場に立ちたいな”という気持ちになり、2006 年に今の主治医の橋本先生から OK が出て、そこからトレーニングを始めました。

(家族や周りの理解)

今回、このメダルが取れたのも、ここに至るまでには家族の理解があってこそ、このように活躍ができました。

また、2006 年の世界選手権からこのパラリンピックに向けての 2 年間、障害者自転車チーム「ジャパン」の方々にこの高次脳機能障害を理解してもらったからでもあります。かなり忘れ物があったり、ミスが多かったです。

今回のパラリンピックにおいても、初日の三千㉿個人追抜きのとき、身分証明書を持たなければいけないのですが、大事なものと思い仕舞い込んだんですね。それで忘れて役員に 3 時間かけて取りに行ってもらったのです。その間もパニックを起こしてはいけないということで監督らが上手く自分の方を制御してくれて、競技に集中することができました。こういうことがなければ、このメダル獲得も成し遂げできなかったです。

まず、やはり家族の理解とか、就労してもその場所の皆さんの理解を得ることがまず先決と思うのです。その理解された上で、自分も自覚しながら行動していくと、結構、動けるのです。そのような活動をしながら、だんだん視野を広げ、行動範囲を広げていくと、上手く出来ると思います。

今回の大会でいろいろとメディアの方から注目を集めたことで、高次脳機能障害を大分広めることが出来ました。今後もこのような活動を通じて社会復帰に向け、何かと力になりたいと思うので、今後ともよろしくお願いします。

## 2 当事者の就労報告

司会 岩手リハビリテーション心理研究会代表 山 舘 圭 子 氏  
(医療法人巖心会 栃内第二病院 主任臨床心理士)

NPO法人いわて脳外傷友の  
会イーハトーヴ  
小 林 亮 太 さん



僕は、小学一年の時、交通事故に遭いました。

その時は障害を持っているなんて全く思っていませんでした。17才の時、母がイーハトーヴを立ち上げようと毎晩のように出かけていましたが、僕は高次脳機能障害を認めていない、というより分かっていなかったのです。しばらくして、イーハトーヴでパーベキューとスポーツ大会を開催するというので、シブシブ(でも、食べることも、スポーツも好きだったので!!)参加してからです。

なんとなく 分かってきたのは…。その後 18才で東京障害者能力開発校で一年学び、それが生かされているかどうかは、分からないが今 仕事をしています。

当事者は、仕事している人もいれば、いない人もいますが、出来るか出来ないかでなくて、するかしないか、やるかやらないかであって、100点ということはないと思います。

(苦労しながら今仕事していますが、その仕事を見つけるまでに、いろんな苦労があった訳ですが、亮太君のよかったところは)

面接不合格となったらへこむ、落ち込むと思います。落ち込むけど、確率 100%なんてある訳ないし、この世の中思い通りに動く訳もないから落ちて当たり前、落ちてダメ元でやってみりゃいいし、受かれば仕事ができるだけです。

(何回もトライし、ダメだったなと落ち込んだときもあったそうですが、そんな中で落ち込まない術を考えたようです)

落ちたら、思い切り遊べばいい。楽しく遊んだらテンションが高くなるから、そのテンションを面接に持っていければいい。

(落ち込みを引きずらないで、自分の気持ちを高める術を自分で獲得したようです。次に今就職しようと考えている人とか、まだ、無理ではないかと考えている当事者へのメッセージです)

不安に思っているのだったら、不安なことだけじゃないこの世って。世の中に不安がないはずがない。不安になって当たり前なんだから、不安でいいじゃん。不安がなきゃおかしいよ。

確かにいい方と悪い方の2つがあるけど、いい方に行くかな？悪い方に行くかな？と考えるのはやめた方がいいと思う。考えて「絶対に落ちるから受けたくない。」とか言うけど、そんなのやってみなきゃ分からない。やりゃいいんだよ。ただ、確率的な問題だから。やんなきゃそこで終わるよ。やっつか×か、やんなきゃ か×の答えもでない訳だし、とりあえずやってみよう。

(とりあえずやってみよう。その後の結果をあまり考えすぎないことが大切です。家族向けのメッセージを)

当事者の家族は、心配するのはいいと思います。けど、心配だから守ってあげよう、というような考えは捨ててください。ライオンになって子を崖から落としてください。

